

# スイートピーの新品種‘ルナ’の育成経過と特性

山元恭介

Kyousuke YAMAMOTO

Breeding Processes and Characteristics of "Luna", New Sweet peas.

## I 緒 言

神奈川県におけるスイートピー生産は大正期より本格化し、兵庫県、岡山県などと並んで、長年独占的産地の地位を保った。昭和60年前後からは、画期的な切り花保存剤の普及などにより需要が増加し、それに呼応して新興産地が続々と形成された。湘南地域で生産されるスイートピーは品質が優れ、現在も高い評価を得ているが、産地間競争は年々激しくなっている。対策の1つとして、地域として形質の優れたオリジナル品種を持つことが考えられ、また、多様な品種が生み出されることは、今後スイートピーの需要が一層伸びて行くためにも必要である。

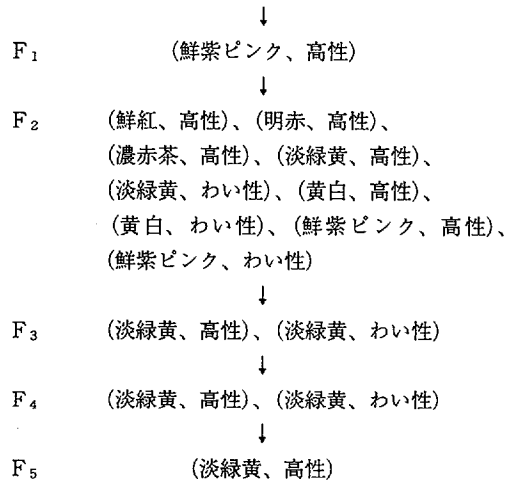
このような背景のもとに、県下の栽培条件に適した冬咲き性の品種の作出を目的として、1987年に交雑育種に着手した。方法としては、切り花、鉢物用などの種々の品種、系統間の交配を行い、後代より優良形質の選抜を続けた<sup>(1)</sup>。このうち、1988年に交配を行ったものの中から、冬咲き性で、花色、花形などの形質が有望と判断される系統が得られたので、その育成経過と特性について報告する。

本品種の育成は、花き科職員一同の協力のもとに行われた。

## II 育成経過

1988年春に、神奈川県園芸試験場内のガラス室で、‘イースターパレード’×‘ビュー’の組み合わせの交配を行い種子を得た。‘イースターパレード’は白色花の切り花用品種で、開花型は冬咲き性、草型は高性である。‘ビュー’は鉢物用の系統で、花色混合種子が市販

イースターパレード×ビュー (赤色花)



\* ( ) 内は旗弁色、草型。

\*\* F<sub>2</sub>以降は淡緑黄、高性個体から採種を行う。

第1図 スイートピー‘ルナ’の育成経過

されており、ここでは赤色花のものを花粉親として用いた。開花型は冬咲き性で、草型はわい性である。これらの種子を催芽後8月下旬にガラス室内ベッドに直播した。以下毎年の播種時期、栽培場所は1988年と同様である。

開花に至ったF<sub>1</sub>21個体の旗弁色はすべて鮮紫ピンク(JHSカラーチャート9705)で、開花型は冬咲き性、草型は高性であった。着蕾節位は25.5節で、従来の高性品種と比較してやや低節位となる傾向が見られた。これらの個体からF<sub>2</sub>種子を採取した。

F<sub>2</sub>の旗弁色は、18個体中鮮紅 (JHS カラーチャート 0107) 1個体, 明赤 (0406) 1個体, 濃赤茶 (0708) 2個体, 淡緑黄 (2702) 2個体, 黄白 (2901) 6個体, 鮮紫ピンク (9505) 1個体, 鮮紫ピンク (9705) 5個体で7色に分離した。草型は高性が14個体, わい性が4個体であった。旗弁色が淡緑黄のものは翼弁も同色で, これまでの冬咲き性の切り花用品種には見られない花色であった。草型は2個体中1個体は高性, 1個体はわい性であった。高性のものからF<sub>3</sub>種子を採種した。F<sub>3</sub>種子の種皮色は薄い茶色と褐色に分かれた。

淡い種皮色のF<sub>3</sub>の花色(旗弁, 翼弁とも)は, 7個体すべてF<sub>2</sub>と同様に淡緑黄 (2702) となった。草型は高性が6個体, わい性が1個体であった。高性個体からF<sub>4</sub>種子を採種した。

F<sub>4</sub>の旗弁色は, 26個体すべて淡緑黄 (2702) となった。草型は高性10個体, わい性16個体となった。高性個体のうち6個体から, 個体別にF<sub>5</sub>種子を採種した。

F<sub>5</sub>の花色はすべて淡緑黄 (2702) となった。草型はF<sub>4</sub> 6個体中3個体から採種したものは, 高性, わい性に分離し(高性個体/わい性個体は, それぞれ5/4, 19/4, 20/10), 残りの3個体由来のものはすべて高性であった(個体数はそれぞれ15, 6, 24個体)。これら

のうち高性に揃った系統よりF<sub>6</sub>種子を採種した。

F<sub>6</sub>は, 花色は淡緑黄 (2702), 草型は高性, 開花型は冬咲き性に揃い, 固定が確認された。この系統の特性を調査し, 切り花用として有望と判断されたので, 'ルナ'と命名し, 1994年12月に種苗法に基づく品種登録を出願した。

### Ⅲ 品種特性

交配親の'イースターパレード', 及び春咲き性品種で同系の花色の'ロイヤルマリオン'などとの比較を交えて, 特性を調査した(第1, 2表)。

開花型は, 発蕾, 開花に低温, 長日条件を必要としない冬咲き性で, 同系色の'ロイヤルマリオン'などと明らかに異なる。8月下旬~9月上旬に播種すれば, 年内からの収穫が可能である。

花色は旗弁, 翼弁とも淡緑黄色で, 従来の冬咲き性品種には見られないものである。日照量が発色にやや影響を及ぼすと思われ, 冬期に比べて, 春期に黄色味が強くなる傾向がある。

花形は花弁がきれいに展開するオープン花で, 'イースターパレード'に比べて花弁の波打ちが大きく華やか

第1表 スイートピー 'ルナ' の花色, 花の大きさ

品 種	花色(JHS カラーチャート)			花の大きさ (cm)						
	旗弁	翼弁	舟弁	花径	旗弁長	旗弁幅	翼弁長	翼弁幅	舟弁長	舟弁幅
ル ナ	淡緑黄 (2702)	淡緑黄 (2702)	淡緑黄 (2903)	5.0	4.1	5.2	3.9	3.5	2.7	1.5
イースターパレード	黄 白 (2701)	黄 白 (2701)	黄 白 (2701)	5.0	4.0	4.9	3.6	3.4	2.7	1.5
ロイヤルマリオン	淡緑黄 (2702)	淡緑黄 (2702)	淡緑黄 (2903)	4.8	4.3	5.2	3.7	3.1	2.9	1.4

第2表 スイートピー 'ルナ' の花蕾数, 開花型等

品 種	1花柄の花蕾数(輪)	開花型	草丈 (cm)*	節間長 (cm)**
ル ナ	3~4	冬咲き	52.9	12.2
イースターパレード	3~4	冬咲き	57.6	10.0
ロイヤルマリオン	3~4	春咲き	47.8	12.4

\* 15節までの茎の長さ。

\*\* 第1花柄着生節から下へ1番目の節間の長さ。

な印象を受ける。花粉親の‘ビュー’が波打ちの非常に強いウエーブ花であり、この形質を受け継いだと思われる。旗弁幅、翼弁長は‘イースターパレード’よりやや大きい。

花柄長は、冬期は一般の品種に比べてやや短い。春期には長くなり、太くてボリュームのある切り花となり観賞価値が増す。1花柄の花蕾数は3～4輪程度である。

葉形は広卵形で、葉色は花粉親の‘ビュー’の形質を受け‘イースターパレード’などに比べて濃い。

栽培管理法は、慣行的な冬咲き品種と同様である。草勢は中程度で、春先まで比較的衰えにくいいため、安定した収量が得られる。

用途は、花束、テーブルデコレーション、ブーケなど幅広いと考えられる。淡くやわらかい花色は、他の花色のスイートピー、他の種類の花とも合わせやすい。

命名の由来は、淡い黄色の花色が月を連想することから、ローマ神話の月の女神「ルナ」から採った。

#### Ⅳ 摘 要

冬咲き性スイートピーの品種育成を目的に交雑育種に取り組んだ。1988年に、‘イースターパレード’×‘ビュー’（赤色花）の組み合わせの交配を行ったところ、 $F_2$ で淡黄色花個体が出現した。以後淡黄色花で、草型が高性の個体から採種を続け、 $F_5$ で淡黄色花、高性、冬咲き性に固定された系統を得た。花色は既存の冬咲き品種には見られないもので、波打ちの強い花卉が、完全に展開する花形は華やかな印象を受ける。この系統を‘ルナ’と命名し、1994年12月に品種登録を出願した。

#### 引 用 文 献

1. 山元恭介. 1993. スイートピーの育種に関する試験（第1報）品種間の交配による $F_1$ 、 $F_2$ 及び $F_3$ の諸形質. 神奈川園試研報43: 83-90.

#### Summary

For the purposes of producing new varieties in winter-flowering type sweet peas, the author engaged in crossbreeding. In 1988 “Easter parade” and “View” (red flower) were crossed. As a result of this crossbreeding, a light yellow flower appeared in  $F_2$ . A fixed line was produced in  $F_5$ , after repeated seed production from plants that had light yellow flowers and were tall.

A flower color of this line did not previously exist in winter-flowering type varieties. The flower looks gorgeous because its petals are perfectly open and wavy. This variety was named “Luna”, and an official registration under the Japanese Seed and Seedlings Law was applied for in December 1994.



‘ルナ’の栽培風景



‘ルナ’の切り花